

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二四（令和六）年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅰ期〈二日目〉

二〇二四年一月三十一日（水）実施

国語

Ⅰ 注意事項

解答用紙の解答科目欄に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は 1 ページから 22 ページまであります。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用することは法律で禁じられています。

Ⅱ 解答上の注意

解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の 2 種類があります。

マーク式の問題で、「解答はマーク式解答用紙 10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の

例のようにマークしてください。記述式の問題には「解答は 記述式解答用紙」と表示がありますので、記述式の

解答用紙に記入してください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。

プロジェクトジョンとは、二〇二五年に認知科学の鈴木宏昭先生ひろあきによって、はじめて①「テイショウテイショウされた概念です。鈴木先生は、「プロジェクトジョンとは、作り出した意味、表象を世界に投射し、物理世界と心理世界に重ね合わせる心の働きを指している」と説明しています。つまり、こころと世界をつなぐ働きをしているものとして、プロジェクトジョンという概念を「発見」したわけです。

人間は、自分をとりまく物理世界から入力された情報を受けとり、それを処理して、表象を作りだします。それは人間にとつての意味となります。けれどもこのような情報の受容と表象の構成は、人間のこころの働きの半分では、ありません。もう半分では、作りだした表象を物理世界に映しだし、自分で意味づけた世界の中でさまざまな活動をしているのです。この一連のこころの働きが、プロジェクトジョンです。

プロジェクトジョンを詳細に説明しようとする、とにかく至極あたりまえのことからお話することになってしまいます。なぜなら、こころと世界がそのままながっていることはあたりまえだと誰もが思っているから。でも、(注1)先ほどの茶碗わんの例のように、そのままがあたりまえではない時もあるとわかると、(ア)人間の不思議なこころで彩られている世界の新たな姿が見えてきます。

プロジェクトジョンの説明のために、まず基本的な枠組みなどをお話するよりも、とりあえずプロジェクトジョンの実例として、いくつか「推し」をめぐるファン行動を見ましょう。なぜなら、「推し」を推すこと、すなわち対象への働きかけは、プロジェクトジョンの「こころと世界をつなぐ働き」そのものだからです。

「推し」をめぐるファンにはさまざまなものがあるとお話しましたが、ファン以外の人からすれば、とても奇妙としか思えないこともたくさんあります。先ほど触れた、夫が「プロジェクトジョンなんだね」と言っていた、(注2)腐女子のやっていることもそのひとつです。男性同士の恋愛要素は②カイトである物語なのに、それを男性同士の恋愛物語として読み替えて楽しむという行為は、たしかにかなり奇妙なものでしょう。

(イ)いくつか、例を見てみます。日曜日の夕方、子どもと一緒にアニメ『ちびまる子ちゃん』を観ていたら、ある時こんな話がありました(二〇二一年七月一日放送)。主人公まる子のお姉さんは、(注3)西城秀樹せいじゆうさんの大ファンです。ある日、まる子とお姉さんが、子ども部屋のなにもない壁を見つめてうっとりしていました。同居しているおじいちゃんがやってきて、それをいぶかしげに見ています。ふたりは子ども部屋の壁に西城秀樹の身長と同じ高さのところへ印をつけて、あたかも西城秀樹がそこにいるかのように想像して見あげていたのです。ふたりの目の前の壁にはなにもないのに、ふたりには西城秀樹が微笑ほほえんで立っている姿が見えていたのです。ふたりからそのように説明されてもピンとこないおじいちゃんでしたが、まる子に「おじいちゃんは百

恵ちゃんやってみなよ」と言われ、^(注4) 山口百恵さんの身長に合わせた高さに印をつけた壁を見つめてみました。すると、おじいちゃんにも微笑む山口百恵が見えて、思わずうっとりしたのでした。

この回は、一九七〇年代を舞台にした物語ながら、西城秀樹という「推し」を推すお姉さんのいろいろな言動が、現代の「推し活」にも通じるということでSNSなどでもかなり話題となったようです。

ところでこれは最初、まる子とお姉さんの見えている世界が見えないおじいちゃんにとっては、ふたりの行動は理解できない奇妙なものです。子ども部屋の壁にはなにもなく、うっとりする意味がわかりません。けれど、理由を説明されておじいちゃんにも同じような世界が見えてくると、おじいちゃんにとって子ども部屋の壁はさつきまでとまったく違う意味を持ちます。子ども部屋の壁に小さな印がつけられたことをきっかけに、三人はそれぞれの「推し」を壁に映し出すという働きかけをしました。そして、壁にはなんの変化もないにもかかわらず、三人にとってはうっとりできるすてきな壁になったのです。たとえばこれが、プロジェクションです。

次の例を見てみましょう。二〇一九年に放送されたNHKスペシャル『AIでよみがえる美空ひばり』(AI=人工知能)は、歌手の^(注5) 美空ひばりさんの過去の音源や映像を人工知能の技術で解析し、デジタル映像と音声で再現した試みです。再現された美空ひばりが4K・3Dホログラム映像で^③ トウシンダイに映しだされ、分析の結果から再現された目や口の動きで新曲を歌い、観客に語りかけます。この企画のちに、再現された「AI美空ひばり」が『NHK紅白歌合戦』にも「出演」したことで、「感動した」「冒瀆^{ぼうとく}では」「人格とは？」など議論Aとなりしました。

私がこの番組を観てもっとも興味深かったのは、AI美空ひばりを実際に目の当たりにしたゆかりのある人々やファンたちが、涙を流して感動していたことです。誰もが、これは本物の美空ひばりさんではない、とわかっています。作りあげられた映像と音声なのだとしっかり理解したうえで、なお激しくこころを揺さぶられていることに、とても驚きました。

これは、^(注6) 美空ひばりを知らない人にとつては、とても奇妙な光景でしょう。その人にはこの映像は、よくできたCGだな、くらいにしか思えません。実際、美空ひばりを知らない私の子どもの感想はそうでした。けれど、偽物であるCGに震えるほど感動できるのは、見ている人がそこに本物の美空ひばりの面影を重ねるといふ働きかけをしているからです。たとえばこれも、プロジェクションです。

もちろんプロジェクションは「推し」だけに起こるわけではないので、違う例もあげましょう。^(注7) 「幽霊の正体見たり枯れ尾花」ということわざがあります。幽霊だと思つて怖がつていたものをよく見ると、風にゆれる枯れすきであった、という意味です。よくわからないので薄気味悪いと思つているものでも、その正体をたしかめてみると、実は少しも怖いものではないということをおぼわしています。

ある朝、リビングから子どもの④ヒメイが聞こえたのでなにごとかと駆けつけたら、部屋の隅にある折りたたまれたキャンプ用のチェアに驚いていました。休日に使おうと思って、前夜、子どもが寝た後に物置から出しておいたものです。雨戸が閉まっおびていて薄暗いリビングの片隅に見慣れないものがあり、子どももいわく「宇宙人かと思った」とのこと。その発想に思わず爆笑しそうになりましたが、本気で怯おびえていた子どもの手前こらえて、チェアを広げてみせ「大丈夫、これはイスだよ」と説明しました。広げられてみれば、子どもが見慣れたイスです。なあんだ、と恥ずかしそうにホツとしている様子を見て、これがプロジェクションだなと思いました。幽霊も宇宙人も、見た人自身が枯れすすきやたたまれたチェアに、幽霊や宇宙人のイメージを映しだしているから存在するわけです。そのイメージが映しだされなくなったら、もう目の前には幽霊も宇宙人もおらず、枯れすすきやたたまれたチェアがあるだけです。

(中略)

いかがでしょう……プロジェクションについて、なんとなくわかってきたような気がしますか？ 最初、建物などに映像を投影するプロジェクション・マッピングとは違うと説明しましたが、むしろ似たようなものと考えたほうがわかりやすいかもしれません。映像／面影やイメージを、映画のスクリーンのようなフラットなものでなく、そこにある「^⑤キソンのもの」に映しだす、ということであれば、それらはほとんど同じと言っていいでしょう。

(久保(川合) 南海子『推し』の科学プロジェクション・サイエンスとは何か』による。一部改変。)

(注) 1 先ほどの茶碗の例のように——筆者は問題文の少し前の箇所、目の前の茶碗で普通にお茶を飲んだ時と、人間国宝が作った高価な茶碗であると知らされてお茶を飲んだ時との、認識と働きかけの変化を説明している。

2 腐女子——「腐女子」という名称は「こんな趣味を好んでいる私たちは腐っている」と当人たちが「腐女子」をもじって自虐的に自称したものが始まりとされる。

3 西城秀樹、4 山口百恵——いずれも一九七〇年・八〇年代に活躍し、人気を博した歌手・俳優。

5 美空ひばり——歌や映画出演で戦後の日本を明るく照らし続け、以後も数多くの名曲を生み出した昭和を代表する歌手、俳優。

6 「幽霊の正体見たり枯れ尾花」——「尾花」はスキの穂のこと。横井也右の俳文集『鶉衣』にある「化物の正体見たり枯れ尾花」が変化した句といわれる。

問1 傍線部①～⑤のカタカナを漢字に改めよ。解答は記述式解答用紙。

- ① テイシヨウ
- ② カイム
- ③ トウシンダイ
- ④ ヒメイ
- ⑤ キソン

問2 傍線部(ア)「人間の不思議なところで彩られている世界の新たな姿が見えてきます」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当と思われるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 1。

- ① 人間が当人以外の人からすれば奇妙としか思えない言動をするのは、ユニークな価値観をもつ人が外界から情報を受け取り、不思議な世界の表象を作りだしているということ。
- ② 人間は自分を取りまく物理世界から情報を受けとってイメージや表象を作り出し、それを物理世界に映しだして新たに世界を自分で意味づけているのが見えてくるということ。
- ③ ころと世界がそのままつながっていないことがわかると、作り出した意味、表象を物理世界に投射するプロジェクションという概念を「発見」できるということ。
- ④ 建物などに光や映像を投影するプロジェクション・マッピングのように、人間は鮮やかに自分を取りまく不思議な外界の物理世界をさまざまに彩っているのが見えてくるということ。
- ⑤ ころと世界がそのままつながっていることはあたりまえだと思っているが、実は「押し」をめぐるファンの行動は奇妙で不思議だというのが見えてくるということ。

問3 筆者は本文に続く叙述で、「プロジェクトのフレームワーク」について説明し、プロジェクトを「ソース」と「ターゲット」の関係から三つのタイプに分類している。次の【プロジェクトのフレームワーク】の説明を踏まえて、傍線部(イ)「いくつか、例を見えます」以降で述べられている具体例①～⑤は、【選択肢】①～③のどのタイプに属しているか、それぞれ適当と思われるものを、【選択肢】①～③のうちから一つずつ選べ。解答番号は、(1) 、(2) 、(3) 、(4) 、(5) 。

【プロジェクトのフレームワーク】の説明

世界のなかに自分(主体)がいます。主体以外の世界を外界とします。外界からの情報を発する人や事物を「ソース(投射元)」と呼びます。外界からの情報を受けとって処理する主体は、ソースが提供する情報を処理して「表象(イメージ)」を構成します。そして主体は、その表象を世界の特定の人や事物に「投射」します。この表象が投射されたものを「ターゲット(投射)」と呼びます。

【具体例】

- (1) まる子とお姉さんが、子ども部屋で西城秀樹の身長と同じ高さのところへ印をつけた壁を見つめてうっとりしている。
- (2) 子ども部屋の壁を見つめてうっとりしているまる子とお姉さんを、同居しているおじいちゃんがやってきていぶかしげに見ている。
- (3) 山口百恵の身長に合わせた高さに印をつけた壁を見つめてみると、おじいちゃんにも微笑む山口百恵が見えて、思わずうっとりした。
- (4) AI美空ひばりを実際に目の当たりにしたゆかりのある人々やファンたちが、涙を流して感動していた。
- (5) 子どもが部屋の隅にある折りたたまれたキャンプ用のチェアを宇宙人だと思って驚いた。

【選択肢】

- ① 通常の投射(外界のソースとターゲットが一致しているケース)
- ② 虚投射(外界にソースが不在でターゲットだけがあるケース)
- ③ 異投射(外界のソースとターゲットが一致していないケース)

問4 空欄 A には二字の熟語が入るが、最も適当と思われるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- ① 発止 ② 雄弁 ③ 風発 ④ 百出 ⑤ 一決

問5 傍線部(ウ)「美空ひばりを知らない人にとっては、とても奇妙な光景でしょう」とあるが、その理由として最も適当と思われるものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

- ① 感動していた美空ひばりにゆかりのある人々やファンたちは、美空ひばりという「推し」を推すという活動をしているのであり、それはファン以外の人からすればとても奇妙としか思えないから。
- ② 美空ひばりを知らない人はよくできたCGには見慣れている世代なので、AIで再現された美空ひばりをよくできたCGだと感心することはあっても、本物と錯覚することはないから。
- ③ 美空ひばりを知らない人は、AIで再現された美空ひばりのことにも興味がないので、よくできたCGだと感心することはあっても、結局は偽物であるCGだと思わざるを得ないから。
- ④ 美空ひばりにゆかりのある人々やファンたちと美空ひばりを知らない人との間には、かなりの世代間の年齢差や文化的背景の差があり、美空ひばりの歌や語りかけそのものに感動できないから。
- ⑤ 美空ひばりを知らない人は、AIで再現された美空ひばりに本物の美空ひばりの面影を重ねるといふ働きかけができないので、偽物であるとわかっているCGには感動できないから。

問6 本文全体を読んで、この本文の内容や構成・表現に合致するものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

① 職業として認知科学を専門としている筆者が日常の体験談を素材にして、本文の随所に専門的な知識を利用しながらもわかりやすい文体で論じたエッセイ風の評論である。

② 身近でわかりやすい例や体験談を挙げながら、読者に語り掛けるような口語体も交えた親しみやすい文章で、認知科学の概念と現代社会の人々の行動や現象との関連を論じている。

③ 昭和から現代に至るまでの芸能人や歌謡曲、TVやアニメなどの人物や出来事を学術的な概念を交えて論理的に考察した、本格的なサブカルチャーに関する分析である。

④ 序論では難しい認知科学の概念を説明しながらも、身近で具体的な例を本論で展開し、最後には現在流行の映像技法にことよせて論をまとめた理解しやすい三段構成の評論である。

⑤ 現代に至る人間の不思議な行動や奇妙な現象の謎を、難解な認知科学の概念を使って解明しているが、卑近な例を数多く挙げているので、読者に理解しやすい文章である。

問7 本文の「推し」をめぐるファンの行動」と「プロジェクト」の共通点を説明したものが次の文章である。本文全体を読んで、次の 1 に入る適当な言葉を50字以内で書き、 2 に入る適当な語句を14字で本文から抜き出せ(ただし、句読点や記号も一字に含む)。

解答は 記述式解答用紙。

「推し」をめぐるファンの対象への働きかけは、人間が

1 (50字以内)

をするプロジェクトの

2 (14字)

そのものである。

第2問 次は、一九三〇年代末に書かれた小説の一節である。これを読んで、後の問い(問1〜5)に答えよ。

「福ずし」は東京の外れに古くからある寿司屋である。先代の店主から看板ごと店を譲り受けた「ともよ」の両親は、上手に店を切り盛りし、店は繁盛するようになった。

常連で、この界限に住んでいる暇のある連中は散髪のついでに寄って行くし、遠くからこの附近へ用足しのあるものは、その用の前後に寄る。季節によって違うが、日が長くなると午後の四時頃から灯がつく頃が一ばん落合って立て込んだ。

めいめい、好み好みの場所を取って、鮭種子で融通してくれるさしみや、酢のもので酒を飲むものもあるし、すぐ鮭に取りかかるものもある。ともよの父親である鮭屋の亭主は、ときには仕事場から土間へ降りて来て、黒みがかった押鮭を盛った皿を常連のまん中のテーブルに置く。

「何だ、何だ」

好奇の顔が四方から覗き込む。

「まあ、やっのご覧、あたしの寝酒の肴さ」

(ア) 亭主は客に友達のような口をきく。

「こはだにしちや味が濃いし——」

ひとつ撮んだのがいう。

「鮭かしらん」

すると、畳敷の方の柱の根に横座りにして見ていた内儀さん——ともよの母親——が、は は は と太り肉を揺すって「みんなおとつあんにしばい喰った」と笑った。

それは塩さんまを使った押鮭で、おからを使って程よく塩と脂を抜いて、押鮭にしたのであった。

「おとっさん狡いぜ、ひとりでこっそりこんな旨いものを拵えて食うなんて——」

「へえ、さんまも、こうして食うとまるで違うね」

客たちのこんな話が一しきりがやがや渦まく。

「なにしろあたしたちは、銭のかかる贅沢はできないからね」

「おとっさん、なぜこれを、店に出さないんだ」

「冗談いっちゃ、いけない、これを出した日にゃ、他の鮭が蹴押されて売れなくなっちゃまわ。第一、さんまじゃ、いくらも値段がとれないからね」

「おとっつあん、なかなか商売を知っている」

その他、鮭の材料を採ったあとの鰹かつおの中落だの、鮑あわびの腸はらわただの、鯛の白子だのを巧に調理したものが、ときどき常連にだけ突出された。ともよはそれを見て「飽きあきする、あんなまずいもの」と顔を皺しわめた。だが、それらは常連からくれといってもなかなか出さないで、思わぬときにひよっこり出す。亭主はこのことにかけてだけ、いこじでむら気なのを知っているので決してねだらない。

よほど欲しいときは、娘のともよにこっそり頼む。するとともよは面倒臭そうに探し出して与える。

ともよは幼い時から、こういう男達は見なれて、その男たちを通して世の中を、頃あいでこだわらない、いささか稚気のあるものに感じて来ていた。(中略)

無邪気に育てられ、表面だけが世事に通じ、軽快でそして孤独的なものを持つている。これがともよの性格だった。こういう娘を誰も目の敵にしたり邪魔にするものはない。ただ男に対してだけは、ずばずば応対して女の子らしい羞はじらいも、作為の態度もないので、一時(注1)女学校の教員の間で問題になったが、商売柄、自然、そういう女の子になったのだと判って、いつの間にか疑いは消えた。

ともよは学校の遠足会で(注2)多摩川べりへ行ったことがあった。春さきの小川の淀よどみの淵ふちを覗いてみると、いくつも鮒ふなが泳ぎ流れて来て、新茶のような青い水の中に尾鰭おひれを閃ひらめかしては、杭根くいの苔こけを食はんで、また流れ去って行く。するともうあとの鮒が流れ溜たまって尾鰭を閃めかしている。流れ来り、流れ去るのだが、(ウ)その交替は人間の意識の眼には留とどまらない程すみやかでかすかな作業のようで、いつも若干の同じ魚が、そこに遊んでいるかとも思える。ときどきは不精なまずそうな鮎なますも来た。

自分の(エ)店の客の新陳代謝はともよにはこの春の川の魚のようにも感ぜられた。(たとえ常連というグループはあっても、そのなかの一人々々はいつか変っている)自分は杭根のみどりの苔のように感じた。みんな自分に軽く触れては慰められて行く。ともよは店のサーヴィスを義務とも辛抱とも感じなかった。胸も腰もつくるわなない少女じみたカシミヤの制服を着て、有合せの男下駄をカランカラン引きずって、客へ茶を運ぶ。客が情事めいたことをいって揶揄からかうと、ともよは口をちよっと尖とがらし、片方の肩を一しよに釣上げて

「困るわそんなこと、何とも返事できないわ」

という。さすがに、それには極く軽い媚びが声に振れて消える。客は仄かな明るいものを自分の気持ちのなかに点じられて笑う。ともよは、その程度の福ずしの看板娘であった。

(岡本かの子『鮎』による。一部改変。)

(注) 1 女学校——戦前期日本の女子教育機関。一二歳から一七歳の女子が通う。

2 多摩川——山梨県に発し、東京都・神奈川県を流れて東京湾へ注ぐ一級河川。

問1 二重傍線部 a 「融通して」、b 「いこじでむら気」の本文中の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤のうちから一つずつ選べ。

解答番号は a 10、b 11。

a 「融通して」

- ① やり取りして ② 誤魔化して ③ 工面して ④ 捻出して ⑤ 見繕って

b 「いこじでむら気」

- ① 欲張りで移り気である ② 天邪鬼で気まぐれである ③ 頑固で気が変わりやすい
④ 内気で気分の浮き沈みがある ⑤ 強引で些細な点にこだわる

問2 傍線部(ア)「亭主は客に友達のような口をきく」とあるが、そのような態度を取るのはなぜか。その理由として適当でないものを、次の①～⑤のうちから二つ選べ。解答番号は 12、13。

- ① 亭主は店を、基本的に常連にとって心地よい場所にしたかと思っっているから。
② 亭主は常連を少しからかいながら、特別なサービスを行おうとしているから。
③ 亭主はわざと親しげに装うことで、家庭的な店であると客にアピールしたいから。
④ 亭主は商売抜きで、常連客と親しい友人として付き合いたいと思っっているから。
⑤ 亭主は自分の腕前を、顔馴染みの客たちに密かに自慢したい気持ちがあるから。

問3 傍線部(イ)「頃あいでこだわらない、いささか稚気のあるもの」について、本文を踏まえた説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① ちょうど良い具合に通り返ぎていく、いくらか遊びの要素を含む子どもっぽいもの。
- ② この頃の自分とは直接関係しないが、気分転換の機会も設けられている魅力的なもの。
- ③ 世情に左右されることのない、淡々とした日常に根ざす、やや幼い面のあるもの。
- ④ ほどほどで折り合っていく、ちよつとした息抜きで生気を取り戻す子どもじみたもの。
- ⑤ 和気藹々とした中でも好機をうかがい相手を出し抜こうとする、少し芝居がかったもの。

問4 傍線部(ウ)「その交替は人間の意識の眼には留まらない程すみやかでかすかな作業のよう」とあるが、この箇所の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 小川の水量が豊かで、鮒を押し流すほどの勢いがあることを説明している。
- ② 鮒の尾緒の閃きの点滅が、人の目には見えないほど高速であることを説明している。
- ③ 鮒の尾緒の閃きがかすかで、同一の個体がそこにいるように見える事態を説明している。
- ④ 川を泳ぐ鮒が苔を食べては去る、その一連の動きのスムーズさを説明している。
- ⑤ 川を泳ぐ鮒が後から後から通り返ぎる、その絶え間のなさを説明している。

問5 傍線部(エ)「店の客の新陳代謝はともよにはこの春の川の魚のようにも感ぜられた」とあるが、ここでいう「新陳代謝」とは何がどのようなこと
を指すか。35字以内で分かりやすく説明せよ。解答は 記述式解答用紙。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

【大学】 情報工学科

経済学科

経営学科

文学科（英米文学専攻・心理学専攻）

教育学科

芸術学科

栄養学科

スポーツ科学科

【短大】 現代教養学科

食物栄養学科

幼児教育学科

上記学科・専攻の受験者は、第3問を解答しなさい。

（14 ページ～18 ページ）

【大学】 文学科（日本文学専攻、歴史学・考古学専攻）の受験者は、第4問【古文】を解答しなさい。

（19 ページ～22 ページ）

第3問 次の文章を読んで、後の問い(問1)に答えよ。

マイケル・トマセロたちが、「指さし」と「視線の読み」の理解について調べた、非常に巧妙な実験は、人間の〈社会性〉と類人猿の「社会性」との間に、深い亀裂があることを暗示している。この実験は、「目標物選択課題」と呼ばれるゲームを、チンパンジーに(そして乳幼児に)やらせるものである。

三つのバケツの中の一つに、食物を隠す。その食物をチンパンジーに探させる。チンパンジーは、過去の経験から、食物は一つのバケツにしか入っていないこと、そして選択の機会は一回しかないことを知っている。この実験には、食物の隠し手と援助者——どちらも人間(実験者)である——が介入する。隠し手は、チンパンジーから食物を隠す。チンパンジーは、もちろん隠しているところを見ることはできない。しかし、援助者が、隠し手が隠すところを覗き見ている。(そしてそのことをチンパンジーは知っている。)食物を隠した後、援助者は、隠し場所の正しい情報を伝えるように指さす。つまり、援助者は、食物が隠されているバケツを指で示す。

さて、チンパンジーはどうするか。これは、少なくとも人間にとっては、答えを教えてもらっているテストのようなものである。チンパンジーは、指が何をさしているかを理解できるのだから、直ちに、正しいバケツのところに行って食物を取るだろう。と予想したいところだ。しかし、チンパンジーは、ただ闇雲にバケツを選ぶだけである。つまり、チンパンジーが正しいバケツを選ぶ確率は、三分の一であり、援助者による指さしがない場合とまったく同じだ。繰り返すが、この実験が興味深いのは、チンパンジーが、指が何をさしているかをきちんと特定できるからだ。実際、この実験で、多くの場合チンパンジーは、援助者の指が向いている先やその視線を追い、正しいバケツを見る。その後、彼(または彼女)は、これとはまったく無関係に、食物が入っているバケツを捜し始めるのだ。(そして三分の二の確率で失敗する。)トマセロは、チンパンジーがまるで次のように独り言を言っているかのようだ、と書いている。

「OK。バケツがあるね。それが何だっというんだ。さてと、食べ物はどこかな？」チンパンジーは、指が何をさしているかは同定できる。しかし、援助者の指さしの行為が、自分の本来の目的、餌を捜すという本来の目的にとって何らかの意義をもっているということ、つまり自分にとっての関連性を理解できないのだ。

人間の子どもだっただろうだろうか。同じ課題を人間の子どもに与えたら。トマセロたちの実験によれば、たった一四カ月の乳幼児でも、この課題を難なくこなすことができる。つまり、援助者の指示を利用して、乳幼児は正解のバケツに確実にたどりつくのだ。まだ、ほとんど言語が出現する以前の段階の乳幼児のことである。

ここまでであれば、チンパンジーが、援助者の指示を有効に活用できなかったことに関して、いろいろな解釈が可能だ。しかし、この実験を、後に実施さ

れた改訂版の実験と比較すると、解釈は一義的なものに絞られてくる。これまでの実験を、協力的条件の下での課題と位置づける。援助者（となる人間）がチンパンジーを助けているからだ。これに加えて、トマセロたちは、競争的条件の下での実験を工夫した。今度は、人間は、競争者として介入する。まず、実験前のウォームアップ・セッションで、競争者は、チンパンジーと食物をめぐる競争する。実験に入ってからでも、競争者は、その争いを続けるかのようふるまう。具体的に言えば、競争者は、——チンパンジーの方に目を向けることなく——、正しいバケツに腕を伸ばそうとする。ただし、物理的な制約があつて（ガラスに空いている穴が小さすぎて、腕が奥まで入らない）、バケツに彼の手が届かない。その後、競争者とは別のもう一人の実験者が、三つのバケツを——正解のバケツと不正解のバケツを両方とも含む——チンパンジーの手の届くところに押しやる。すると今度は、チンパンジーは、直ちに、どこに食物が隠されているかを理解し、正しいバケツを選んだのだ！

最初の協力的条件の実験と後者の競争的条件の実験では、実験者の行動の外観はよく似ている。つまり、実験者（援助者または競争者）は、身体之最も目立つ部分（指、視線、腕）を、正しいバケツの方へと向けている——けれども届いてはいない。どうして後者の実験では、チンパンジーはすぐに正解にたどり着くの、前者の実験では、うまくいかなかったのだろうか。競争的条件の下で、チンパンジーは、さうとう複雑な推論を展開している。チンパンジーは、競争者（ライバル）が、自分と同じものを欲望していることを理解している。そして、その競争者が、（純粋に自分自身の利害から）特定のバケツに手を届かせたいと望んでいることも、チンパンジーは理解している。この二つから、チンパンジーは、バケツの中に、（チンパンジー自身にとっても価値がある）よき物が隠れているに違いない、と推理しているのである。

人間の観点からは、明らかに、協力的条件のときの方が、選択課題は簡単である。協力的条件のときには、端的に正解が指示されており、目標物に到達するために何の媒介的な推理も必要ないからだ。人間とチンパンジーとは、問題の難／易が逆転する。どうしてなのか。

チンパンジーは、他者が、何の理由もなく、自分に対して利他的に振る舞ってくれるとは想定していないからである。他者の無条件の「善意」を、チンパンジーはまったくあてにしていないのだ。

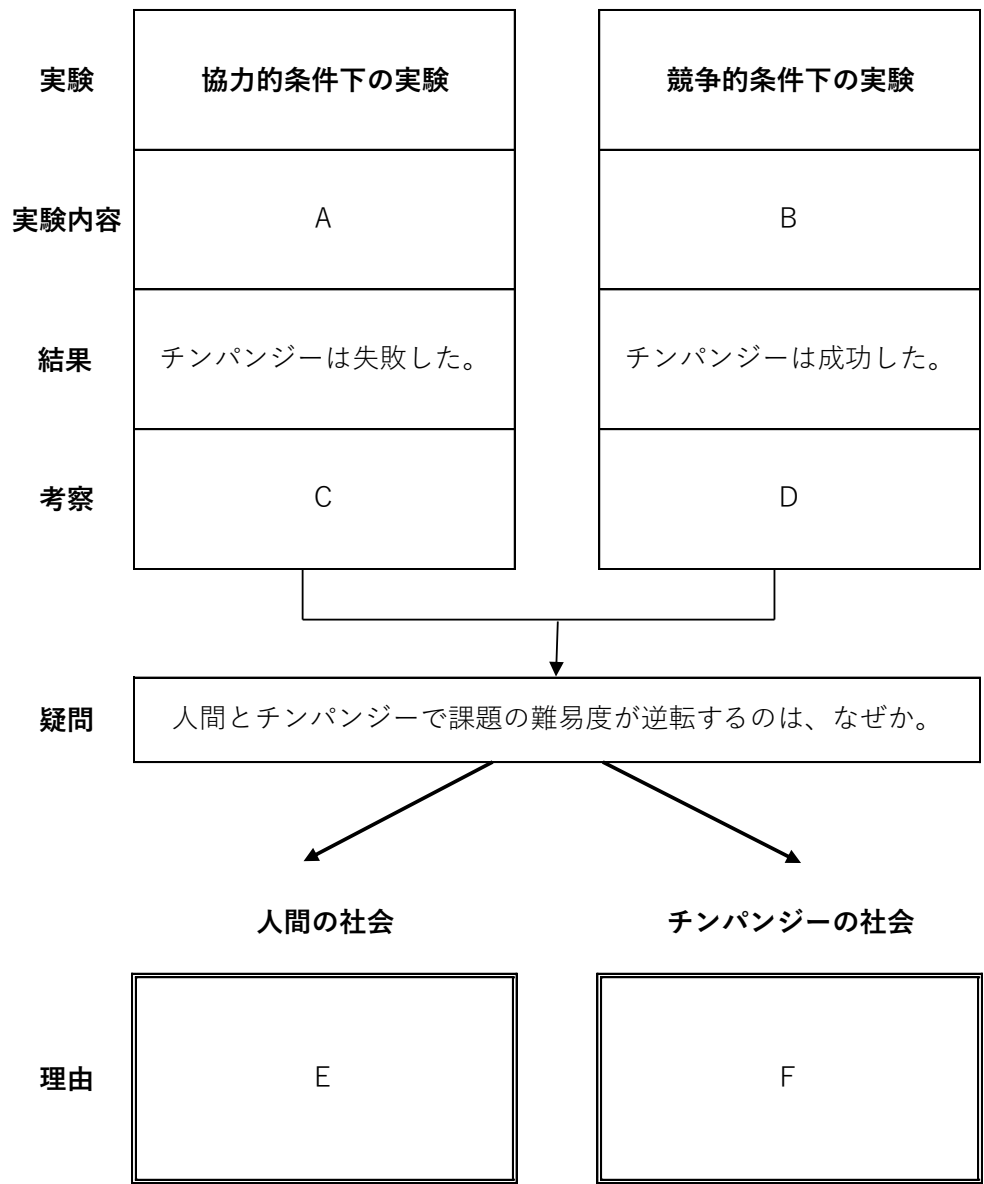
逆に言えば、人間の方は、他者が無条件に「善意」をもっていることが前提である。もう少しいいいに言えば、この「目標物選択課題」の実験は、人間の個体が、他者に対して、二つのこと——二つのことの少なくとも一つまたは両方を——想定している。第一に、他者は、一般に、私に対して、私の利益につながるか、私にとって有意義な情報を与えてくれる。たとえば、そのことが他者にとって直接の利益をもたらさなくても。第二に、他者は、私と情報や見解を共有することを欲している。これらの想定は、実際、われわれが日々体験しているように、おおむね満たされる。たとえば、私が道に迷って困っていれば、誰かが正しい道順を教えてくれる。このとき、他者の有用な情報提供は、私にとっては、無償の贈与を受けたに等しい。あるいは、われわれは、始終、

他者と情報や感情を共有したがっている。「さわやかな天気ですね。」などと、とりたてて役に立たない情報を交換するのも、そのためである。トマセロらの目標物選択実験は、まだ言語も習得していない乳幼児でも、この二つの想定（のうち少なくともひとつ）をもっていることを示している。乳幼児は、援助者が、乳幼児本人にとって有用な情報を提供してくれているか、あるいは乳幼児と情報を共有したがつているか、どちらか（または両方）であると前提にしているのだ。

次のように言ってもよい。人間と大型類人猿では、デフォルトの初期状態として設定されている社会の様態が正反対なのだ、と。大型類人猿では、それは、競争的条件の下にある社会である。だから、彼らは、競争的条件の下では、ライバルの行動からただちに正解に至りつくことができたのだ。人間では、それは、協力的条件のもとにある社会である。だから、人間の乳幼児は、援助者が提供する情報を活かすことができたのだ。

このように、人間が前提にしている〈社会〉と類人猿の「社会」は大きく異なっていることがわかる。どちらの社会も、それぞれ、環境に適応的だと言える。

（大澤真幸『〈社会性〉への不可解な進化』による。一部改変。）



問1 Aさんはこの文章を読んで、トマセロの「目標物選択実験」を、次の表のように整理した。空欄A、B、C、D、E、Fに入れるのに最も適当なものを、次の①～⑨のうちから一つずつ選べ。解答番号はA 16、B 17、C 18、D 19、E 20、F 21。

- ① 他者がいかなる場合も、何の理由もなく、自分に対して利他的に振る舞うと想定している社会だから。
- ② チンパンジーは、競争者が望んでいるものにはよき物が隠れているといった複雑な推論ができる。
- ③ 他者が何の理由もなく、自分に対して利他的に振る舞うと想定していない社会だから。
- ④ 競争者が存在し、食べ物の入ったバケツを指さす。
- ⑤ チンパンジーは、援助者の指さしと自分の目的との関連が理解できないが、人間（乳幼児）はその関連を容易に理解できる。
- ⑥ 援助者が存在し、食べ物の入ったバケツを指さす。
- ⑦ チンパンジーは、援助者の指さしと自分の目的との関連を容易に理解できる。
- ⑧ 情報の共有を欲している社会においては、他者は一般的に自分に対して利益を与えてくれるから。
- ⑨ 競争者が存在し、食べ物の入ったバケツに腕を伸ばす。

第4問【古文】 次の文章は『とはずがたり』の一節で、父を亡くしたばかりの作者のもとを愛人が訪ねてきた場面である。これを読んで後の問いに答えよ。

露消えにし朝は、御所御所の御使より始め、雲の上人^{うへびと}（a）おしなべて訪ね来ぬ人もなく、使をおこせぬ人なかりし中に、^{（注1）}基具の大納言一人訪れざりしも、世の常ならぬことなり。

その折りのその暁より日を隔てず、「心の内はいかにいかに」ととぶらひし人の、^{（b）}長月の十日余りの月をしるべに訪ね入りたり。なべて黒みたるころなれば、^{（注2）}無文の直衣姿なるさへ、^{（ア）}わが色に紛ふ心地して、^{（イ）}人伝てに言ふべきにしあらねば、寝殿の南向きにて逢ひたり。「昔今のあはれとりそへて、今年は常の年にも過ぎて、あはれ多かる袖のひまなき。一年の雪の夜の^{（注3）}九献の式、『常に逢ひ見よ』とかやも、^{（ウ）}せめての心ざしとおぼえし」など、泣きみ笑ひみ、夜もすがら言ふほどに、明けゆく鐘の声聞こゆるこそ、^{（注4）}げに逢ふ人からの秋の夜は、^{（エ）}言葉残りて鳥鳴きにけり。「^{（注5）}あらぬさまなる朝帰りとや、世に聞こえむ」など言ひて帰るさの、なごりも多き心地して、

別れしも今朝のなごりをとりそへて置き重ねぬる袖の露かな

^{（オ）}はした者して車へ遣はしはべりしかば、

^{（オ）}なごりとはいかが思はむ別れにし袖の露こそひまなかるらめ

（注） 1 基具の大納言——源基具。一二三二〜一二九七。

2 無文の直衣——紋様のない、高位貴族の平常服。

3 九献——盃を三杯ずつ三度さし、酒を酌み交わすこと。

4 げに——「逢ふ人からの秋の夜」は『古今和歌集』、「言葉残りて鳥鳴きにけり」は『伊勢物語』中の和歌からの引用である。

5 あらぬさまなる——作者と愛人とが人目を忍ぶ関係であることを受けた表現。

問1 二重傍線部(a) (b) (c)の文中の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は a 16、 b 17、 c 18。

(a) 「おしなべて」

- ① 一様に
- ② 一目散に
- ③ 一緒に
- ④ 一途に
- ⑤ 一向に

(b) 「長月」

- ① 七月
- ② 八月
- ③ 九月
- ④ 十月
- ⑤ 十一月

(c) 「はした」

- ① 召使いの
- ② 高齢の
- ③ 足が速い
- ④ 気の利いた
- ⑤ 側近の

問2 傍線部(ア)「わが色」が表す心情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 恋慕
- ② 哀悼
- ③ 後悔
- ④ 猜疑心さいぎしん
- ⑤ 感謝

問3 傍線部(イ)「人伝てに言ふべきにしあらねば、寝殿の南向きにて逢ひたり」に含まれない助動詞を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 20。

- ① 当然の助動詞
- ② 断定の助動詞
- ③ 打消の助動詞
- ④ 完了の助動詞
- ⑤ 推量の助動詞

問4 傍線部(ウ)「せめての心ざし」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

21

- ① 作者による、亡くなった父への心尽くしの供養。
- ② 作者の愛人の、作者への独りよがりな慰め。
- ③ 亡くなった父による、作者への精一杯の愛情。
- ④ 作者の愛人による、亡くなった父への大げさな供養。
- ⑤ 作者の、愛人に対して責任を問おうという意思。

問5 傍線部(エ)「言葉残りて鳥鳴きにけり」が指す情景の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

22

- ① あまりの悲しさに言葉が出ない中、代弁するかのように鳥が鳴いたということ。
- ② いつまでも話していたのに、恨めしくも鳥が鳴き出してしまったということ。
- ③ 話そうか逡巡^{しゅん}していると鳥が鳴く時刻になり、ついに機会を失ったということ。
- ④ まだ話し終わらないでいると、会話に加わるように鳥が鳴き始めたということ。
- ⑤ 鳥の鳴き声を聞いたことで、今日までの会話がすべて思い出されたということ。

問6 傍線部(オ)「なごりとはいかが思はむ別れにし袖の露こそひまなかるらめ」の和歌の大意として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

23

- ① 作者は、父との別れよりも愛人との別れを悲しんで絶えず泣くことだろう。
- ② 作者の袖をぬらすものは、父の死を悲しんで流した涙に他ならないだろう。
- ③ 作者の愛人が作者にかける恩情が、今後は露のように僅かになってしまう。
- ④ 作者の父が死んだ今となっては、作者は愛人のためにしか泣かないだろう。
- ⑤ 作者を大事に養育してきた父からの愛情が、露のように消えて無くなった。

**2023(令和6)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
一般選抜I期（1日目／2024年1月31日実施）
解答例【マーク式】**

国語 【国語総合】			
解答番号	正解	配点	
第1問	1	②	4
	2	②	3
	3	①	3
	4	②	3
	5	③	3
	6	③	3
	7	④	3
	8	⑤	4
	9	②	5
第2問	10	⑤	4
	11	③	4
	12	③	3
	13	④	3
	14	④	5
	15	⑤	5
第3問	16	⑥	3
	17	⑨	3
	18	⑤	3
	19	②	3
	20	⑧	3
	21	③	5

国語 【国語総合+古文】			
解答番号	正解	配点	
第1問	1	②	4
	2	②	3
	3	①	3
	4	②	3
	5	③	3
	6	③	3
	7	④	3
	8	⑤	4
	9	②	5
第2問	10	⑤	4
	11	③	4
	12	③	3
	13	④	3
	14	④	5
	15	⑤	5
第4問	16	①	2
	17	③	2
	18	①	2
	19	②	2
	20	⑤	2
	21	③	3
	22	②	3
	23	②	4

マーク	75
記述	25
計	100

マーク	75
記述	25
計	100

記述式解答用紙 「国語」

解答例

志望学科	受験番号
学科	氏名
専攻	専攻

※専攻は「文学科」「教育学科」受験の場合に記入してください。

第1問

④	①
悲鳴	提唱
⑤	②
既存	皆無
配点各	③
2	等身大

問7

二	一		
「こころ」と世界を	の	物	外
「こころ」と世界を	中	理	界
「こころ」と世界を	で	世	か
「こころ」と世界を	さ	界	ら
「こころ」と世界を	ま	に	受
「こころ」と世界を	ぎ	映	け
「こころ」と世界を	ま	し	取
「こころ」と世界を	な	だ	っ
「こころ」と世界を	活	し	た
「こころ」と世界を	動	、	情
「こころ」と世界を	配点	自	報
「こころ」と世界を	6	分	で
「こころ」と世界を	配点	で	作
「こころ」と世界を	3	意	り
「こころ」と世界を		味	だ
「こころ」と世界を		づ	し
「こころ」と世界を		け	た
「こころ」と世界を		た	表
「こころ」と世界を		世	象
「こころ」と世界を		界	を

第2問

問5

し	店
い	の
も	客
の	の
に	顔
変	ぶ
わ	れ
っ	が
て	、
い	い
る	つ
こ	し
と	か
。	古
	い
	も
	の
	か
	ら
	新
配点	
6	